

週報①

広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況(腸管病原菌含)

検出菌 ウイルス	2020年												2021年														
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月 ~6日	6月 ~13日	6月 ~20日	6月 ~27日	7月 ~4日	7月 ~11日	7月 ~18日	7月 ~25日	8月 ~1日	8月 ~8日
カンピロバクター	42	46	55	54	92	177	241	189	97	132	148	125	114	65	137	114	169	32	39	20	24	37	39	30	16	34	12
病原性大腸菌	22	34	39	30	24	63	60	76	52	42	41	52	39	25	52	61	55	12	23	17	12	24	13	19	7	13 (16)	8
腸管出血性大腸菌	1	0	0	0	1	4	0	2	1	2	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	2	0	0	0
サルモネラ	4	1	2	4	10	7	14	29	16	10	10	3	6	5	3	1	5	2	1	1	4	4	3	2	1	2	10
黄色ブドウ球菌 MSSA	6	20	11	3	9	15	15	20	13	17	18	12	14	16	33	19	39	6	9	5	5	8	4	3	2	0	3
黄色ブドウ球菌 MRSA	10	11	17	8	14	14	11	17	9	10	11	9	10	10	15	25	31	6	4	1	2	5	6	3	0	5	5
腸炎ピブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	1	1	0	0	7	0	0	0	0	2	1	3	4	2	1	1	0	0	0	0	0	1	0
ロタウイルス	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
ノロウイルス	10	14	6	1	0	0	0	2	0	0	0	1	4	5	6	11	13	2	5	0	2	0	0	0	0	0	0

* ()は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

週報②

広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC) 感染症週報

令和3年第31週(8月2日~8月8日)

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	3	結核	3	2				1		
三類	1	腸管出血性大腸菌感染症	1							1
四類	2	日本紅斑熱	2						2	
五類	5	クロイツフェルト・ヤコブ病	1					1		
		侵襲性肺炎球菌感染症	1					1		
		梅毒	3					2	1	
新型インフルエンザ 等感染症	663	新型コロナウイルス感染症	663	40	29	126	3	310	22	133

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市
西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町
北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

1 新型コロナウイルス感染症

第31週に、310件の報告があり前週の約1.8倍と増加しています。全国の新規感染者数は急速な増加が続き、過去最大の規模となっています。更に、感染性が高いとされるデルタ株への置き換わりが進み、8月初め時点で陽性例に占めるデルタ株の割合は、関東地方で90%、関西地方で60%と推測され、本市においても徐々に増え始めています。今後、デルタ株の影響やお盆休みの帰省などで、感染が急拡大する可能性があります。基本的な感染防止対策に加えて、外出の半減、市外への往来自粛(通勤、通学等を除く)などの対策を徹底しましょう。また、ワクチン接種を完了していても感染する場合がありますので、感染防止対策を継続することが大切です。

【参考】感染状況を踏まえた皆様への改めてのお願いと重点区域の拡大【R3.8.5会見】(広島県)

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/2019-ncov/20210805.html>

【参考】新型コロナワクチン接種後に新型コロナウイルス感染症と診断された症例に関する積極的疫学調査(第一報)(国立感染症研究所)

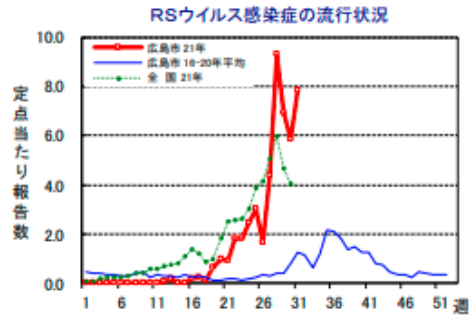
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ka/corona-virus/2019-ncov/2488-idsc/iasr-news/10534-498p01.html>

2 RSウイルス感染症

定点当たり7.83人の報告があり、多い状況が続いています。生後数カ月までの乳児が初感染した場合は、重症化しやすいといわれていますので、咳等の呼吸器症状がある人との接触を避け、おもちゃや手すりなど手の触れる部分の消毒、手洗いに努めましょう。

【参考】RSウイルス感染症Q&A(厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs_qa.html



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号
フィルン	インフルエンザ	-	-	0.12			小児科	流行性耳下腺炎	-	-	0.18	
小児科	咽頭結膜熱	6	0.25	0.51			眼科	RSウイルス感染症	188	7.83	1.25	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	12	0.50	1.51			眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-	
	感染性胃腸炎	42	1.75	3.76			眼科	流行性角結膜炎	1	0.13	0.65	
	水痘	4	0.17	0.22			眼科	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	1	0.04	2.74			眼科	無菌性髄膜炎	-	-	0.03	
	伝染性紅斑	-	-	0.26			基幹	マイコプラズマ肺炎	-	-	0.23	
	突発性発しん	7	0.29	0.41			基幹	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	2	0.08	0.88			基幹	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	

急増減	↑	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↘	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	→	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	1	54	70歳代
5	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	70歳代
5	侵襲性肺炎球菌感染症	1	5	90歳代
5	梅毒	2	36	20歳代、30歳代

■新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	発症年月日	検査材料	検出病原体
感染性胃腸炎	嘔吐 腹痛 腸重積 鼻炎	0	2021/06/14	糞便	Aデノウイルス2型
流行性角結膜炎	結膜炎 結膜充血 眼脂 眼結膜の発赤	38	2021/02/26	結膜擦過物	Aデノウイルス53型
その他の消化器疾患	嘔吐 下痢 腹痛 腸重積	1	2021/02/24	糞便	Aデノウイルス31型
その他の消化器疾患	血便 嘔吐	0	2021/06/15	糞便	Aデノウイルス2型
その他の疾患	発熱(38.5℃) 紅斑	0	2021/06/24	咽頭拭い液	ハラインフルエンザウイルス3型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載